

「正信偈」について（第十二回）

正信偈の教え中 古田和弘、正信偈のこころ限りなきいのちの詩 戸次公正、等による
いんどきいてん し ろんげ

印度西天之論家

印度・西天の論家、

ちゅうかじちいきしこうそう

中夏日域之高僧

中夏・日域の高僧、

けんだいしょうこうせしやうい

顕大聖興世正意

大聖興世の正意を顕し、

あらわ

みようによらいほんぜいおうき

明如来本誓応機

如来の本誓、機に応ぜることを
明かす。

しゃかによらいりやうがせん

釈迦如来楞伽山

釈迦如来、楞伽山にして、

りやうがせん

いしゅうごうみようなんてんじく

為衆告命南天竺

衆のために告命したまわく、

ごうみよう

りゅうじゅだいにじしゅつとせ

龍樹大士出於世

南天竺に、龍樹大士世に出でて、

しつのうざいは うむ けん

悉能摧破有無見

ざいごとく、よく有無の見を
摧破せん。

〔意訳〕

インド・西域の論述家や、中国・日本の高僧がたは、釈尊が世に出られた本当の意義を顕かにし、阿弥陀如来の誓いが、凡夫の資質に応じていることを明らかにされた。

釈迦如来は楞伽山において、大衆のためにお告げになられた。南インドに、龍樹という菩薩が世に出て、ことごとく、肯定と否定のこだわりを碎き破るであらう。

印度(インド)また西天も天竺インドのことです。論家とは「論」といわれる著作を世に残しておられる人という意味です。中夏は中国のことで、「夏」は大きくて盛んなありさまを表す文字です。日域は勿論私たちが住む日本のことです。印度には龍樹大士と天親菩薩、中国には曇鸞大師、道綽禪師、善導大師、日本には源信僧都と源空(法然)上人。この七人の高僧の他にも、念仏の大切さを教えられた先人は何人もおられたが、親鸞聖人は、特にこの七高僧が「大聖」つまり釈尊が世にお出ましになられた本当のお心を顕かにして下さったと見ておられます。そして、阿弥陀如来が^{おこ}発された誓願が、まさしく私達のような邪見で驕慢の悪衆生を救うのにふさわしい誓願であることを、この七高僧は顕かにして下さっていると教えておられます。

お釈迦様が楞伽山におられて沢山の人びとに向かつて教えを説いておられ、そこで重要な予告をされました。それは、ずっと後の世に、南天竺、つまり南インドに龍樹という名の菩薩が出生するであろうということ、そしてその龍樹菩薩は、人々がこだわっている誤った考え方をことごとく打ち砕くであろう、という予告だったのです。皆がこだわる誤った考え方^{けん}というのは、ものごとを実体として肯定する考え方(有^うの見^{けん})と、ものごとを虚無^{きよ}として否定する考え方(無^むの見^{けん})です。

実在するの^か実在しないのか、そのようなことよりも、「実在する」とか、「実在しない」とか、そのように自分勝手に思い込んでこだわると、その様な「思い」や「こだわり」から、まずは離れる必要があると、龍樹大士は教えておられ、そうでなければ、自分が迷いを深めて混乱するばかりか、他人をも混乱させ苦しませる事になると教えられるのです。釈尊が説かれた「縁起」の深い内容を、龍樹は「空」の思想で顕かにされた。それは、ものごとを固定的に考えたり、実体的に捉えたりして、それにこだわってはならないという教えなのです。ものごとの「事実」は、私たちの知識ではなくて、釈尊が教えられた智慧によって顕かになるといふことなのです。